



リファレンス大阪駅前第4ビルで行われたひとけた会「1月度研修会」の様子。末永イノベーション経営の末永春秀氏が講師に招かれた

ひとけた会「1月度研修会」大阪で開催

末永春秀氏が講演 「人を育てる人を作る」

末永春秀氏が講演

1月24日、大阪市北区リファレンス大阪駅前第4ビルで、ひとけた会（谷山令一会長）の「1月度研修会」が午後1時より行われた。

自分ではなく周囲が決める事で、幸せは自分が感じる物です。釣界では経営者やその一族だけが幸せになり、会社を潰すケースがあります。こういった経営者では、従業員はもろにん関わっている人は成功する事も幸せになる事ありません。このような時代ですから、以前から申しています。谷山会長が、シエアを止め、争いを止めて、パイを増やす努力をしていきます。



谷山会長 挨拶をする

「人を育てられる社員」



末永春秀氏 講演を行った

研修会は奥村会員の司会で進行。冒頭、谷山会長より「小宮一慶さんが言われた事ですが、成功と幸せとは何か。成功とはどのような時代ですか、

講師は（株）末永イノベーション経営の末永春秀氏。社労士から株日本経営に入社。その後、同社を設立。約30年にわたって250社以上の人事改革を成功させてきた経営コンサルタントだ。テーマは「人を育て

「しょう」という要旨の挨拶が述べられた。また、当日は7人のオズバーが参加し紹介された。

内容は、まず自分の会社が今日あるのは人を育て、事業構造を育ててきたからだ。つまり、「経営の成長」「人材の成長」「資本の成長」「商品の成長」となる。ただ、経営者に育てられた「その人」は「次の人」を育て

「社員教育と人材育成」テーマに意見交換

ているかという点で、多くの企業が躓いている。人が育った範囲でしか、事業展開は難しい。こういった、人材育成の柱は、其々の会社でどれくらい大きなものになっているのか。また、事業展開上、どうしても必要なので外部から、良い人材の前提や教育する方法も何も決まっていない場合が多い。それで効果が上がらない。人材育成の代表的なポイントとしては、「考え方（つまり価値観の大きな枠についての共有が必要。それぞれの会社の仕事で必要な考え方（価値観）はこの方向だ、という事を明確にする事、日々の中で指導教育し、上司が実践している事が大事だ。具体的には「あの会社の人はみんな礼儀正しく親切だ」、「あそこまで報告している」といった具合だ。ほか、「人を育てる人を作る」、そして人材育成の連鎖を作るための様々なポイント等が具体的に紹介され、参加者は熱心に聞いていた。



講演後の質疑応答も活発に行われた。休憩をはきみ、会員研修としてグループ討論が行われた。テーマは「社員教育と人材育成の実態」として6つの班に分かれて、それぞれ会員が発表した。「講師を招いて電話対応や顧客対応を勉強している」、「人材不足が深刻」、「毎日全員で掃除、朝礼、肩もみをする」、「社員が釣りに行く事をサポートする制度を設けている」など、様々な各社の取組みや悩みが発表された。